



▲朗読ボランティアの活動により厚生労働大臣からの感謝状を受賞、岸部市長に報告する「あかねグループ」の齊藤怜子代表（左）と伊藤倫子さん（中央）、前代表の寺田榮子さん（11月20日）

視覚障害者に地域の情報を提供「朗読ボランティア」

市内では3グループが活動

このほど、視覚障害者への朗読ボランティアで、「あかねグループ」（齊藤怜子代表、会員17人）が厚生労働大臣からの感謝状を受賞しました。視覚障害者の皆さんが地域の情報を知るための大きなお手伝いとなるこの活動。市内では現在、3グループが地方紙や広報紙の音訳テープを制作し、目の不自由な方などに提供する活動に取り組みられています。あまり知られていないその活動の一端をご紹介します。

「情報障害」の軽減のためのお手伝い「音訳ボランティア」

視覚に不便を感じない人々は、多くの場合、目に見える様々な状況や情報を基に判断し行動しています。しかし、視覚障害者の方にとっては、日常生活の中に多くの不便が生じてしまいます。「視覚障害は情報障害」と言われることもあります。

その情報障害を少しでも軽減するためのお手伝いが「音声訳（音訳）ボランティア」活動です。

私たちの周りには、小説や雑誌、説明書のような出版物のほか、手紙や新聞、広報、回覧板、商店のチラシなど日常生活に必要な印刷物がたくさんあります。視覚障害者は、テレビ音声やラ

ジオでは各種情報を知ることができるものの、印刷媒体から直接情報を知ることはできません。そのため秋田県では、「秋田県点字図書館」が、点字図書や録音図書の形でサービスを提供していますが、出版物のごく一部に限定されます。

また、生活により密接した、特に、テレビ・ラジオで報道されない地方紙の記事や広報については、身近な人が紙面を読み、伝えてあげることが最良のお手伝いです。しかし、その分量や、必要とする情報の好みによっては一人の力では限界があります。

そこをカバーしているのが朗読（音訳）ボランティアの皆さんです。県内では、多くの市町村で広報紙を音訳し「声の広報」として視覚障害の方々に届ける活動が行わ

れています。北秋田市では、広報紙のほか、県内で唯一、新聞の記事を音訳しているグループがあります。

地方紙を音訳、障害者に提供している「あかねグループ」

地元紙の記事をテープに吹き込み、北秋盲人会の会員ら20人に提供しているのが、現在17人の会員で活動を行っている朗読ボランティア「あかねグループ（齊藤怜子代表）」です。

同グループは、昭和62年に数人の会員で発足、以来、月2回一度も欠かすことなく音訳テープを利用者の皆さんに届け、これまで発行したテープは462本に上ります。このような活動が評価され、このたびの厚生労働大臣からの感謝状

受賞となったものです。

秋田県では、地元紙の音訳ボランティアはあかねグループだけといわれ、利用者にとってもたいへん貴重なサービスになっています。

声の広報は「やまびこ」と「カナリア」2グループが提供

また、市の広報紙を音訳し、「声の広報」として視覚障害者の方に提供しているのは、朗読ボランティア「やまびこ（三澤禮子代表）」と「カナリア（小林節子代表）」の2つのグループ。

「やまびこ」は、昭和52年に結成された鷹巣町婦人ボランティアが前身。発足2年目の54年に声の広報に取り組みはじめ、平成4年、声の広報部門が「やまびこ」として独立、平成16年には息の長い活

視覚障害者に地域の情報を提供「朗読ボランティア」



▲「あかねグループ」は、4人が2人ずつのペアで吹き込みを行います。一回分（60分、月2回発行）の編集作業には、ほぼ一日を費やします



▲吹き込む記事は、地方紙4紙の中から選びます。一人が受持つ時間は15分。時間に合わせ、利用者が聞き取りやすいように朗読します



▲完成したテープは、専用の「郵袋」に入れて送ります（郵政公社認可の無料サービス）。返却は、宛先の書かれた名札を裏返して投函します



▲こちらは「やまびこ」で録音した声の広報のマスターテープの一部。広報紙は、紙面全てを音訳するため、多いときはテープ2本になることも

動が認められ、厚生大臣表彰を受けています。現在は12人の会員で「広報きたあきた」と「市議会だよりきたあきた」の音訳サービスを行っています。

また、平成13年からは会員が自分の好きな詩やエッセイ、民話などを朗読する「朗読コンサート」も毎年開催しています。

「カナリア」は広報もりよしの音訳ボランティアとして平成12年に活動が始まり、今年で6年目を迎えました。現在の会員は5人。主として森吉地区の利用者を対象に活動しています。

月2回、ほぼ一日をかけてテープに吹き込む録音作業

「あかねグループ」と「やまびこ」

は、主に宮前町の北秋田市地域福祉センター内に設けられている録音室で活動を行っています。

あかねグループでは、はじめに2人の会員が、地元紙4紙の中から30本ほどの記事を選び、持ち寄ります。これを、4人の会員で手分けし、60分テープに収録できるよう一人15分ずつの長さに編集、録音します。15分という決められた時間に合わせて音訳するには、記事を要約するなどの工夫も必要だそうです。一本のテープに6人が携わりながら、この作業を月2回ずつ繰り返します。

「やまびこ」と「カナリア」が行っている声の広報や市議会だよりの場合は、紙面をすべて音訳します。ページ数が多いときは、通常用い

る90分テープに収まりきらず、2本になることもあるそうです。

作業の締めくくりは発送作業。各グループとも、こうして完成したマスターテープをもとに複製を作り、専用の袋に入れて利用者のもとに送り届けます。

障害の有無に関わらず多くの方のご利用を

情報満載のテープは、多くの利用者が待ち望んでいます。各グループには、利用者から、感謝の言葉が添えられた記事についての感想もたくさん寄せられます。

テープを利用されている一人、北秋盲人協会（吉田栄会長、会員23人）の吉田会長は、「地域の情報を知る手段として音訳テープは本

当にありがたい。活動は、貴重な時間を割いてのボランティア。たいへんだと思うが、これからも継続していただければありがたい」と感謝していました。

最近では、目の不自由な方に限らず、加齢による目の衰えなどからも音訳テープを聴きたいと言われる方もいらっしゃるようです。各グループでは、障害の有無に限らずテープの利用を勧めています。

また、各グループとも、息の長い活動を継続するため、お手伝いいただける方を募集しています。テープの利用を希望される方、朗読ボランティアの活動に関心のある方は、次までご連絡ください。

■広報情報課 ☎62-6608